

・研究内容

19 世紀英国数学史、探偵小説

紹介する本

1. イーアン・ペアーズ『指差す標識の事例』（上・下）池央耿、東江一紀、宮脇孝雄、日暮雅通訳、創元推理文庫、2020 年

17世紀清教徒革命後の英国を舞台にした歴史ミステリ。4人の語り手が1つの事件をそれぞれの視点から語るという構成で、4人の訳者がそれぞれの手記を翻訳しているという趣向である。この1つの事件を複数の視点で語るという構成は芥川龍之介の「藪の中」にも見られるのは周知のことだろう。3人の手記を読み終えて、4人目の手記を読み始めると途中からの展開に全く読むことをやめられなくなり（ある程度まではこの展開は予想がつくのだが）、結末まで一気に読み終えることになるだろう。本書はミステリという範疇だけに収めることは難しいだろうと考える。17世紀の英国、同時代の科学等に興味を持っている人に強くお勧めしたい。